

柏市版

Ⅱ.アプローチカリキュラム





1. 小学校の学びの基礎 となる幼児期の姿



幼稚園・保育園・認定こども園が小学校と円滑に接続するためには、互いの教育を理解し、子どもの育ちや学びのつながりを見通すことが重要です。

幼児期の育ちや学びは、小学校以降の教育の土台となります。だからといって、この時期に単なる小学校の準備や、小学校教育の先取り教育を行うことは、適切ではありません。幼児期の教育と小学校教育での子どもの生活・学びを相互に見通してつなぐことで、それぞれの保育や教育を充実させていくことが大切です。



小学校の学びの基礎となる 幼児期の姿（１）系統

関連する主な教育
要領・保育指針の
ねらい

5歳前期

- ・年長になった自覚をもつ時期
- ・気の合う友達と共通の目的をもって遊びを進める時期

4月 5月 6月 7月 8月 9月

生活習慣・運動	基本的な生活習慣	健康 (1)(2)	・意欲的に生活をし、身の回りのことを自分から気付いて行う。
	健康な心と体	健康 (1)(2)(3)	・生活や遊びを通して、自ら安全を意識して行動する。(前期・中期を通して) ・気の合う友達と思いきり体を動かして遊びを楽しむ。 ・健康に対して関心をもち、自分の体調の変化に気付く。 ・食べ物に興味・関心をもち、みんなで食べると美味しいと感じることを通して、食べることを楽しむ。(年間を通して)
人との関わり	自立心	人間関係(1) 環境(1)	・年長児としての自覚をもち、自分でしなければならないことを進んで行う。
	協同性	人間関係(2)	・友達との関わりを通して互いの感じ方や考え方などに気付く、分かり合おうとする。
	社会生活との関わり	人間関係(3)	・家族や身近な人々に親しみをもって関わりと共に、家族に大切にされていることがわかる。
	道徳性の芽生え	人間関係 (2)(3)	・優しい気持ちで異年齢児との関わり、思いやりの気持ちをもつ。
	規範意識の芽生え	人間関係(3)	・友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。 ・してよいこと悪いことが分かる。
学びの芽生え	思考力の芽生え	環境(2)	・身近な環境に関わり、自分から気付いたり、発見を楽しんだり、考えたり、振り返ったりする。
	自然との関わり 生命尊重	環境(1)	・不思議に思ったことなどを、よく見たり、試したり、考えたり、調べたりして、身近な事象への関心をもち、遊びに取り入れる。
	数量や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚	環境(3)	・生活の中で、自然物や自然の事象を、考えたり工夫したりして遊ぶ。 ・動植物の世話を通して、可愛がったり思いやりの気持ちをもったりする。
	言葉による伝え合い	言葉 (1)(2)(3)	・思ったことや経験したことをみんなに分かるように言葉で伝えようとする。
	豊かな感性と表現	表現 (1)(2)(3)	・心を動かす出来事や絵本などを通し、イメージを膨らませて、自分なりの方法で表現することを楽しむ。
連携	保護者との関わり		・保護者の進級に対する不安を和らげるよう保育参観や懇談会を行い、進級後の子どもの様子を伝えたり、接続期のカリキュラムについて説明したりする。 <年間を通して> ・懇談会で保護者同士のつながりが深まるようにする。
	小学校との連携		・幼保こ小地区別連絡会にて、連携の年間計画を作成する。 ・授業参観や協議会を行い、情報交換や子どもの育ちについて共有化を図る。(特に保育者が新1年生の様子を知る。) <年間を通して> ・校庭散歩 合同避難訓練 小学校行事への参加・見学 ・小学校長による保護者向け講話 教員による出前授業

5歳中期 ・目的に向かって友達と協力して意欲的に取り組む時期 ・自分の力を発揮する時期	5歳後期 ・一人一人のよさを認めて友達との絆を深めていく時期 ・就学に向けて期待をもち、一人一人が自信をもって行動する時期	小学校
9月 10月 11月 12月	1月 2月 3月	
・生活の流れに見通しをもって行動しようとする。 ・仲間やクラスの皆と目的に向かって力を合わせたり、個々が意欲的に取り組み、力を発揮したりして、十分体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。	・生活の中で時間の流れを意識したり、状況の変化を予測したりして、見通しをもって行動する。 ・健康・安全、生活に必要な基本的習慣など自分で判断して適切な行動の仕方が分かり、自信をもって生活する。 ・友達と心と体を十分に働かせながら様々な遊びに取り組み、挑戦したり、競い合ったりして皆で遊ぶ充実感を得る。	
・自分でできないことは実現できるように工夫したり、助けを借りたりしてくじけずに自分でやり遂げようとする。 ・自分がやるべきことが分かり、役割を果たそうとする。 ・自分の思いを伝えつつ、相手の気持ちを理解して折り合いを付けていく。 ・目的に向かって活動する中で、考えを出し合ったり工夫したり協力したりしながらやり遂げようとする。 ・地域の人や身近な人に関わる中で、様々な関わり方に気付く。 ・必要な情報を共有し、遊びに活用する。 ・より遊びを楽しくするために必要に応じてルールを作り替えたり、新たに作ったりして遊ぶ。 ・してよいこと悪いことを自分で考えて行動する。	・しなければならないことを自覚して行い、あきらめずにやり遂げることで満足感を味わいながら自信をもって行動する。 ・小学校との交流等を通して、小学校への期待をもつ。 ・共通の課題や目的に向かって、友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどが分かり、主体的に遊びや活動を進めることができる。 ・地域の人や身近な人と関わり、相手の気持ちを考え、自分が役に立つ喜びを感じる。 ・思いやりをもって関わり、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。 ・自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら、きまりを守る必要性が分かり、守ろうとする。 ・してよいことや悪いことを考え、より適切に行動しようとする。	ス タ ー ト カ リ キ ユ ラ ム へ
・様々な環境に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みに気付き、発見を楽しんだり、考えたり、振り返ったりしていろいろな関わりを楽しむ。 ・自分の考えと相手の考えの違いに気付き、受け入れようとする。 ・季節の移り変わりを感じ取り、自然の不思議さや偉大さを感じて、積極的に遊びに取り入れる。 ・同じものでも季節により変化するものがあることが分かり、変化に応じて遊びや生活を変えるようになる。 ・生活の中で、遊びに使う簡単な標識や文字に関心をもち、遊びに取り入れたり、数量を数えたり、比べたりする。 ・思いや考えを、相手にわかるように話すとともに友達の話に関心をもちよく聞く。 ・遊びや生活の中で、材料や方法を選び工夫して作ったり、想像を豊かにして表現したりすることを楽しむ。	・友達などの様々な考えに触れる中で、相手に思いがあることに気付き、自分の思いを考え直したり、自分の考えをよりよいものにしたりしていこうとする。 ・生命の営みや不思議さから生命の尊さに気付き、身近な動植物を命あるものとしていたわり大切にする気持ちをもつ。 ・必要感から数えたり、比べたり、組み合わせたりすることを通して、数量・図形等への関心・感覚が高まったり、数字や文字を遊びの中で進んで使ったりする。 ・相手の気持ちを汲みながら聞いたり、自分の思いをわかりやすく伝えたりする。 ・今まで経験してきたことを生かしながら、様々な方法で表現したり、友達と工夫して表現したりすることを楽しむ。	
・運動会やお楽しみ会、発表会等を通じて子どもの成長を伝え、保護者と達成感を共有する。 ・就学に向けて、生活習慣が身についているかを見直し、意識して生活できるよう保護者にも伝えていく。	・保護者と子どもが安心して就学が迎えられるよう参観や懇談会を行い、担任から1年間の成長を伝えたり、現1年生保護者から就学に向けての生活の見通しを伝えたりする。	
・園児と小学生の交流活動(レク、秋祭り等)をし、小学生に憧れたり親しみをもったりする。 ・小学校教員が園で、保育者が小学校で実習し、相互理解を図る。 ・小学校の給食体験(保育者、園児) ・相互参観や協議会を行い、情報交換や子どもの育ちについての共有化を図る。	・小学校体験(授業、ランドセル、学校案内 等)をし、入学へのイメージと期待をもてるようにする。 ・小学校の教諭が保育参観などを通して学んだ幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に、引継ぎの話し合いをする。	

小学校の学びの基礎となる幼児期の姿（２）幼児期の経験

項 目		幼児期で経験する姿(一例)
生活習慣・運動	健康な心と体	○ 給食…自分の食べられる量に加減し，時間内に完食をする。 ○ 身支度や後始末を丁寧に行う習慣を身に付け，整理整頓の大切さに気付いていく。 (その他の活動) 掃除ごっこ，ボタン付けごっこ，衣服の着脱，食事のマナー，配膳，排泄，整理整頓，うがい・手洗い，ハンカチで汗を拭く など ○ 園外保育…歩いたり，自然と触れ合ったりすることで心も体も解放され，十分に体を動かして遊ぶ。 ○ クッキング保育…自分たちで栽培したものや普段食べているものを自分たちで調理して味わうことで，食への興味を高め，苦手なものも味わおうとする。 (その他の活動) 給食，様々な運動遊び(鬼ごっこ，なわとび，遊具など)，うがい・手洗い，健康診断 など
	自立心	○ お楽しみ会(劇，歌等)，楽器遊び(鍵盤ハーモニカ，楽器のリズム打ち等) …友達の声을聴き合わせて歌う。劇の話を思い浮かべ，原本にない台詞を作って演じる。友達とイメージを共有し，役割を決めて取り組もうとする。友達と協力して表現することで一体感や喜びを感じる。 ○ 困ったときは自分から声を出して助けを求め，必要な援助を受けながら次第に自分でできるようにしていく。 (その他の活動) 着替え，当番活動，制作活動，お泊り会，お楽しみ給食，レスキュー隊ごっこ，クラス替え，苦手なことへの挑戦 など
人との関わり	協同性	○ ドッジボール，リレー…練習や作戦会議を開いていく中で，友達の意見を受け入れたり，よいところを認めたりしながら，協力することの大切さや友達との違いやよさに気付く。 ○ お神輿作り…みんなで話し合い，同じイメージを持つことで，力を合わせ作りあげていく達成感を味わう。 (その他の活動) 当番活動，飼育・栽培，お遊戯，歌，合奏，運動会，クラス対抗競技，色おに，ドロケイ，しっぽとり，リレー，お相撲大会 など
	道徳性・規範意識の芽生え	○ 自分の考えを主張したり，譲ったりする等，集団の中で自分の気持ちをコントロールしながら友達と活動しようとする。 (その他の活動) 他学年との関わり，おもちゃの貸し借り，友達への手助け，誕生会 など ○ ルールのある遊び…鬼ごっこやドッジボール等，ルールを守らないと遊びが持続しないことを知る。 ○ 園外保育…道路の歩き方等の交通ルールや電車等，公共の乗り物や場所でのマナーを知る。 ○ 日常的な活動…話し合ったり，実際に経験したりすることで身に付く。 先生や友達の話を聞く，自分の意見を言う，友達と声や気持ちを合わせる，約束を守る。 一人でも約束やルール，きまりを守れないと楽しくない，続かないことを経験を通して知っていく。 (その他の活動) クラスで行う活動(朝の会，帰りの会，歌，手遊び，わらべ歌，ゲーム など)，友達とのトラブルの解決，避難訓練，園内・園庭巡り，交通安全教室 など

人との関わり	社会生活との関わり	○ 地域の行事への参加…地域の人と触れ合う機会を持つことで、地域の人への優しさに触れ、人のよさ、関わることの心地よさを知る。 ○ 小さいクラスの子の手伝い…手伝いを通し、必要とされることの喜びを知る。 ○ 散歩…公園で会った子と一緒に遊んだり、道中で出会った人に声をかけたり、かけられたりし、様々な人との関わりを楽しむ。また、道中にあるお店を見て、「ここ知ってる。」「〇〇を買うところだ。」など自分たちの日頃活用しているお店について関心を持ち、友達や保育士に伝える。 (その他の活動) お年寄りとの交流、探検ごっこ、親子遠足、消防署の見学、小学校との交流会 など
学びの芽生え	思考力の芽生え	○ ピカピカだんご作り…どうしたら固くなるのか、どうしたら光るのかなど思考錯誤する。 ○ 積木、カプラ…イメージしたものをどう組み合わせたり、積み上げたりしたらよいか考えながら作る。 ○ 自然との触れ合い…なぜ紅葉するのか、どんなとき氷ができるのかなど、疑問に感じたこと調べたり、実験したりする。 (その他の活動) ままごと、砂場遊び、水遊び、段ボール遊び、廃材遊び、お化け屋敷ごっこ、友達とのトラブルの解決、自由遊び など
	自然との関わり・生命尊重	○ 生き物の飼育…生き物と触れ合うことで、生きるために何が必要かを考えるきっかけをつかみ、大切に育てていくことで、死んでしまった時の悲しみや命の尊さを知る。 ○ 野菜などの栽培活動…栽培していくことの楽しさだけでなく、自分たちで作ったものを食すことで、食べ物を育てることの大変さや他の命をもらっていることに気付く。 (その他の活動) 植物の栽培、探検ごっこ、どんぐりや落ち葉を拾う、天気の様子を観察する など
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○ 手紙を書く…手紙を書くという遊びを通し、文字に興味をもつ。 ○ すごろく、トランプ、パズル、こまなどの遊び …数の大きい小さい、マークの形、数字の感覚、速い遅い、まっすぐや斜めなどの感覚を遊びの中で知りながら遊びに役立てていく。 (その他の活動) 砂遊び、水遊び、粘土、折り紙、カルタ、パズル、トランプ、積木、お店屋さんごっこ、郵便ごっこ、猛獣狩りゲーム、時計を見る、出席カードにシールを貼ったり、日付を確認したりする、文字ワーク、縄跳び など
	言葉による伝え合い	○ ピカピカだんご作り…自分の作り方や工夫したことを実際にやって見せたり、言葉にしたりして相手に伝える。相手の思いや考えを受け止めたり、相手の話を受け入れたりして、自分のだんご作りに役立てる。 (その他の活動) なんでもバスケット、インタビューごっこ、伝承遊び(花いちもんめ、あわぶくたったなど)、季節の掲示物を作る、トラブル後の話し合い、役割やグループの名前を決める、当番や誕生会などでの名前の発表 など
	豊かな感性と表現	○ 歌…歌詞の意味を理解し、情景を思い浮かべながら歌う。感情をこめて歌う。 ○ 劇作り…一冊の絵本を友達と一緒に読み深め、場面ごとの情景や登場人物の表情などから感じたことを言葉や身体で表現する。 (その他の活動) 手遊び、お絵かき、ままごと、折り紙、絵本の読み聞かせ、砂遊び、伝承遊び、水遊び、楽器遊び、音楽会の発表、オペレッタ、季節の変化に気付く など



2.エピソードから見る 幼児期の姿



項目名

健康な心と体（運動）

（協同性，社会生活との関わり，道徳性の芽生え，規範意識の芽生え，言葉による伝え合い）

【活動名】こおり鬼するもの，この指とまれ

【時期】5歳児 4月～11月

【ねらい】遊びを通して子どもたちが主体的かつ意欲的に体を動かすことを楽しむ。

「こおり鬼するもの，この指止まれ」次々に子どもたちが集まる。「鬼決めしよう」A児が，リーダーシップを取り，順番につま先をタッチしていく。「鬼決め，鬼決め，鬼じゃないよ。」

ところがA児は自分が鬼になりたくて一人抜かしてしまう。すると見ていたB児が「抜かしてる。ずるい。」と指摘する。周りの数人も指摘する。A児は困った顔をしながらも，もう1度やり直す。A児も遊びのルールを守り，楽しく進められるようになる。

最初はどの子どもも自分が逃げることで精一杯だったが，A児の「つかまっちゃった。助けてー」の声に，B児が「今，助けに行くね。」と応える。しかし，鬼が複数でガードしていて助けにくい状況だった。そこで，B児が「ぼく，こっちから行くから向こうから行って」と言うと，C児が「わかった。こっちから行くね」と作戦を瞬時に立てチームプレーで助ける。

環境の構成

- ・保育者が一緒に遊びながら，ルールを確認したり，動きのモデルとなったりする。
- ・ルールの変更や作戦づくりについて友達と話し合い時間を確保し，子どもの考えをまとめ，実践を促す。



保育者の援助

- ・やりたがらない子どもも楽しさを感じられるように誘っていく。
- ・トラブルがあった場合は，まずは子ども同士の解決を見守り，話し合う時間をつくる。必要に応じて間に入り，双方に話を聞き，気持ちを汲み取っていく。

育っていること

- ・遊びの中で夢中になって意欲的に体を動かすことで心身ともに成長していく。また，ルールを変化させることで，苦手な子ども楽しむことができる。
- ・集団で遊ぶことで，体を動かす心地よさを友達と共有して楽しみ，一緒に作戦を考え工夫し，競い合ったり協力したりできる。
- ・継続して行うことで脚力，瞬発力が身に付いて機敏な動きができるようになり，危険回避にも繋がる。

小学生の姿

鬼ごっこを通し，意欲的に体を動かし，様々な動きをすることを楽しむのは，体育の「運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，楽しく明るい生活を営む態度を養う」ことにつながると考える。

【体育】

- ・運動遊びに進んで取り組み，きまりを守り誰とでも仲よく運動したり，場の安全に気を付けたりする。
- ・多様な動きをつくる遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝える。

【国語】

- ・相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基いて話す事柄の順序を考える。

【道徳】

- ・友達と仲よくし，助け合う。
- ・約束やきまりを守る。

【特別活動】

- ・学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし，解決するために話し合い，合意形成を図り，実践する。

（その他情緒など）

- ・集中力を身に付ける。
- ・最後まであきらめずに頑張る。

項目名

健康な心と体（自然との関わり・生命尊重，自立心，基本的な生活習慣）

【活動名】クッキング保育「カレーづくり」

【時期】5歳児（4歳児3月～5歳児6月）

【ねらい】・植物の世話を通して，自然の事象へ関心をもつ。
・調理を通して，食べ物に関心をもち，食べることを楽しむ。

年中組（4歳児）3月，園内の畑に種芋を植えた。今までも様々な野菜や花の種や苗を植え育てた経験はあったが，芋を植えるところからまた芋が出来るということに子どもたちは驚き，興味をもって水やりなどの世話をしながら生長する過程を観察してきた。年長組（5歳児）に進級した6月になると，葉が枯れてきたのを合図に収穫をした。

年長組では，6月下旬に行われる「お泊り会」に向け，子どもたちが「自立」や「健康な体づくり」について，より意識して生活できるよう，絵本を使ったり教師が分かり易い資料を使って話したりしてきた。子どもたちは，様々な食べ物（栄養素）をバランスよく食べること，生活の流れを見通して排泄を行うこと，意識的に体力づくりをすること，睡眠をしっかりとること等，食事・排泄・運動・睡眠を意識し積極的に取り組み始めた。

「お泊り会」当日，子どもたちは収穫したジャガイモを使い，夕食のカレーの材料となるジャガイモ（半分に切っているものに十字に包丁を入れる）と人参（いちょう切り）を包丁で切る経験をした。自分たちで育てたジャガイモの入ったカレーを美味しそうに何度もおかわりして食べていた。

環境の構成

＜栽培＞

- ・畑…水やりが出来るじょうろを近くに置く。
- ・生長の変化を写真展示する。

＜クッキング当日＞

- ・子どもたちが包丁で切る材料の下準備しておく。
- ・道具や材料は，グループごとに分けて机に置く。

＜その他＞

- ・体に関する絵本，食べ物に関する絵本，ポスター等



保育者の援助

＜栽培中＞

- ・子どもたちの意識が向くように声を掛ける。
- ・生長の変化が見られた時はクラス全体に伝える。
- ・生長の変化を写真に撮り，子どもたちの目につくところに展示する。

＜クッキング当日＞

- ・包丁を扱う際は，危険の無いよう傍で見守ったり，必要に応じて手を添えたりする。
- ・材料がどんな栄養になっていくのか等にも触れ，苦手な野菜等も食べてみようとする気持ちをもてるようにする。

育っていること

- ・食べ物にはそれぞれ栄養があり，食べることで体がつくられていることを知る。
- ・自分たちで育てた材料を使って調理し，味わう喜び，満足感
- ・愛情を注いで植物を育てる。
- ・カレーの材料や作る過程を知る。
- ・みんなで同じものを味わう喜び。
- ・苦手な野菜も食べてみようとする気持ち
- ・ジャガイモが生長する過程（葉や花，芋のなり方）を知る。
- ・収穫する喜びを味わう。
- ・包丁の扱いに注意しながら，自分でジャガイモ，人参を切る。
- ・生のジャガイモと火を通したジャガイモの硬さの違い

小学生の姿

ジャガイモを育て，収穫して味わうことは，生活科の「身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う」ことにつながる。さらに，自分たちが育てたものを料理して食事をするすることで，食育につながり，食に対する関心をもち，食べることと健康の関係に気付くことができると考える。

【理科】・植物を育て，発芽，成長及び結実の様子を調べ，その条件についての考えをもつ。（4年「季節と生き物」）

（5年「植物の発芽と成長」，「植物の実や種子のでき方」）

（6年「植物の体のつくりとはたらき①日光との関わり」，「植物の体のつくりとはたらき②水との関わり」，「生物と地球環境」）

【生活】・自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもって働きかける（2年「さいばい おいしく そだってね」）

【家庭】・材料の洗いや，切り方などが適切にできる。（5年「クッキングはじめの一歩」，「食べて元気に」）

・楽しく食事をするための工夫をする。（6年「こんだてを工夫して」）

【道徳】・身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接する。

（その他）【食育】心身の健康 ・栄養のバランスをよくするために，好き嫌いなく食べることが必要であることが分かる。

・様々な食品には，それぞれ栄養的な特徴があることが分かる。

感謝の心 ・食料の生産は，すべて自然の恩恵の上に成り立っていることが分かる。

社会性 ・協力したりマナーを考えたりすることは相手を思いやることであり，楽しい食事につながる事が分かる。

項目名

道徳性・規範意識の芽生え（言葉による伝え合い、豊かな感性と表現）

【活動名】新しく入ってきたお友達との関わり

【時期】5歳児 9月～10月

【ねらい】言葉が通じなかったり、思いが伝わらなかったりする場合、相手の気持ちを考え自分はどうされたらうれしいか等、考えていけるようにする。

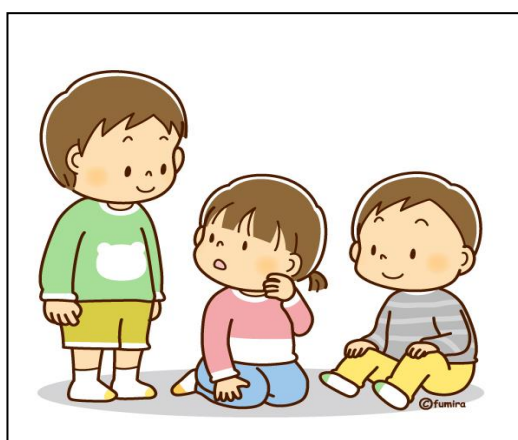
2学期に入り、年少組に途中入園してきた女児がいた。彼女は外国から引っ越してきたばかりで、日本語は全く分からず保育者の言葉も受け入れられない。言葉が通じないせいか、同じクラスの子どもたちは、はじめは上手く関われず、喧嘩になってしまうことが多かった。

年長組の子どもたちもはじめは「言葉が通じない子」「先生の言うことが聞けない子」等といった先入観をもち、からかってしまう子どももいたが、担任が「どうすればみんなと同じように過ごせるか考えてみよう!」と提案すると、自分たちが年少組の入園時に年長さんにしてもらったことを思い出し「優しく教えてあげよう」等の意見が出た。

次第にジェスチャーを使ったり、言葉を何度も繰り返して教えたりする姿が見られるようになった。

環境の構成

- ・クラスで話し合い、考える時間を1度だけ設け、子ども同士の関わりの機会を増やす。



保育者の援助

- ・自分が小さかった時年長児はどう接してくれたか思い出すよう話をする。
- ・年少の入園時の行動を思い浮かべられるよう、紙芝居などの教材を見せる。

育っていること

- ・自分たちが出来ない時、どうしてももらったらうれしいかを考えられるようになる。
- ・意思の疎通がうまくいかないだけでなく、日本語が上手く話せない場合どうしたら相手に伝わるのか、自分たちなりに考えて行動する。

小学生の姿

他者を意識し、自分の気持ちを調整することは、道徳の「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」ことにつながる。また、特別活動の「集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすること」の素地となり、望ましい集団作りにつながる。

【国語】

- ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ。
（1年「ほんをよもう」、「しらせたいことをかこう」、「おはなしどうぶつえんをつくろう」）
- ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ。
- ・伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する。

【道徳】

- ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
- ・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。
- ・友達と仲よくし、助け合う。
- ・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にする。
- ・他国の人々や文化に親しむ。

項目名

社会生活との関わり（言葉による伝え合い、道徳性の芽生え、協同性）

【活動名】おじいちゃん おばあちゃん がんばれー！

【時期】4歳児 5月～9月

【ねらい】高齢者の存在を知り、親しみをもって接し、他者に対するやさしさ、思いやりの心を育む。

園と老人ホームが合築の建物になっているため、その利点を活かし、園児の散歩コースがお年寄りの部屋の前を通るようになっている。その日も散歩をしていると、日向ぼっこをしていた7、8人の高齢者が「部屋に上がって行きな！」と誘ってくれた。他の子は喜んで部屋に入って行ったが、普段から警戒心の強いA児は泣いて室内に入ることができなかった。一人の高齢者がA児を目で追っている姿があり、それを見ていたB児が「Aちゃんのこと好きみたいだよ。」とA児の手を取り、高齢者の側に行った。信頼できる友達の手助けもあり、自ら高齢者に触れ合う姿が見られるようになった。

散歩の帰り道、ガラス越しに階段の上り下りのリハビリをしている高齢者に気づいた子どもたちは「がんばれー！がんばれー！」と応援を始めた。近くに同じような段差を見つけ、「1、2 1、2」と大きな掛け声を掛け、クラスみんなで真似をし、一緒にやることで、高齢者を応援しようとする気持ちが生まれたようだ。

環境の構成

- ・隣接する施設を利用し、自然に高齢者と触れ合える機会を作る。
- ・感染症の多い時期は注意が必要。



保育者の援助

- ・初めて会う高齢者に不安を抱かれないよう、保育者が手本となって声を掛けるようにする。
- ・子どもたちの元気な姿が高齢者に“元気を与える”ことを話し、積極的に関わられるようにする。

育っていること

- ・自分たちの元気な姿が高齢者の役に立った喜びを感じ、自信がつくことで、地域の方々と積極的に関わることができるようになる。
- ・高齢者と自然に触れ合い、言葉を交わすことで、多様な人間関係の基礎となる力が身に付く。

小学生の姿

この経験は、生活科の「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考える」ことにつながる。身近な高齢者との双方向性のある活動の中で、感じ、考え、気づき、自分のよさを生かして関わろうとすることは、親しみや愛着をもち、適切に接したり、進んで触れ合い交流したりするようになり、自立への基礎を養うことにつながると考える。また、体験して感じた気づきを、自分自身の生活へ関連させていくと、自身の成長を感じることもつながると考える。

【国語】・伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する。

・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ。

【生活】・身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

（1年「ようこそあきのテーマパークへ」幼稚園・保育園・こども園との交流会

2年「町のキラリをひろげたい」）

・相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。（1年「手がみを出そう」）

【道徳】・身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。

・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。

【特別活動】・学校の生活において、仲よくしたり信頼し合ったりして生活する。

・異年齢の児童同士で協力する。

項目名

思考力の芽生え

（自立心，協同性，自然との関わり，数量や図形などへの関心・感覚，言葉による伝え合い）

【活動名】ピカピカだんご作り

【時期】5歳児 11月

【ねらい】工夫して自分なりの作り方を見つけ、あきらめないで最後まで作る。

3歳児から取り組んでいるピカピカだんご作り。5歳児は、自分の顔が映るくらいピカピカのだんごを作ること为目标にしている。自分なりの作り方を見つけ、上手いできないときは他の子に作り方を教えてもらったり、自分の作り方と比較したりする姿が見られる。

砂場の砂と保育室前の細かい砂とを混ぜ合わせ、握りやすい混合具合に調整したり、光らせるベースとなるだんごにサラサラの細かい砂をかけてコーティングしたりする。手指で磨くよりもより輝きを得られるため、コーティングの層をスーパーのビニール袋を利用して磨く子もいる。また、磨きに使うビニール袋の印刷がだんごに移ることから色のついただんごを作りたいと遊びが次の遊びに変化・発展した。

だんごに色を付けるにはどうしたらいいか、という疑問に「園庭に線を描く粉（石灰）」という意見や「クレヨンじゃない？」など色々な意見が出る。石灰は保育者が試してみたが、表面に付着するが触るとはがれてしまう。クレヨンを踏み潰してだんごの表面にこすり付けてみる。「だめだよ。色がつくけど光らなくなっちゃう。」クレヨンに含まれる油のせいか、だんごの艶が無くなってしまった。レンガをコンクリートですり潰して粉にし、だんごの表面にまぶしてみるなど色つきピカピカどろだんごを目指して取り組んでいた。

環境の構成

- ・異年齢交流の時間を確保する。
- ・実現したい思いを受け止めて、材料を用意する。



保育者の援助

- ・砂と水の量の関係に気付くように言葉をかける。
- ・上手にできた子に作り方を聞くようにつなげていく。
- ・遊びが発展していくように、「どうする？」と子どもと一緒に考える。

育っていること

- ・土や水の感触を楽しみ、特性に気付く。
- ・自分の作り方や工夫した点をやって見せたり、言葉にしたりして相手に伝える。
- ・友達の思いや考えを受け止め、相手の話を受け入れて、友達と楽しみながら試行錯誤をする。

小学生の姿

泥だんご作りを通して、土や水の感触を楽しみ、さらにピカピカの泥だんごにしようと友達と一緒に試行錯誤することは、図工の「身近な自然物や人工の材料の形や色を基に、造形的な活動を思いつく」ことや「自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりする生活上必要な習慣や技能を身に付ける」ことにつながる。また、工夫して作り上げる活動は、どの教科の学び方にもつながってくる。

【国語】

- ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ。
- ・互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

【算数】

- ・ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする。

【生活】

- ・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

【理科】

- ・空気や水、物の状態の変化などについて理解する。（4年）
- ・自然界の水の様子について理解する。（4年）
- ・土地やその中に含まれるものについて理解する。（6年）

【総合的な学習の時間】

- ・探究的な活動を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する。
- ・他者と協働して問題を解決しようとする。

項目名

思考力の芽生え

（数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚，言葉による伝え合い，豊かな感性と表現，協同性）

【活動名】「カプラ」を使った遊び

【時期】5歳児 通年

- 【ねらい】・自分のイメージしたものを試行錯誤しながら形にしてい（個人）
・友達とイメージや方法を伝え合いながら，協力して一つの形を作ってい（グループ）

雨天日など，室内遊びの際に「カプラ」（1ピースの比率が，厚さ1：幅3：長さ15の木片）を使って遊んでいる。個人でイメージしたもの（乗り物・建物・動物等）を形にしたり，数人の友達と作りたいものを決め，互いのイメージを出し合いながら，協力して作り上げたりしている。ちょっと触っただけで崩れてしまうこともあるので，せっかく形になっても途中で壊れてしまうことも多いが，壊れるときに大きな音が出るので，それも楽しんでいる様子。時に，「こわされた！」とトラブルになることもあるが，作ったり壊れたりを繰り返しながら楽しんでいる。

遊びの時間だけではなく，保育者からの課題として，グループで協力して高く積み上げていき，どのグループが一番高く積み上げることができるか等，競わせることもある。グループ対抗で順位も競うということで，子どもたちも大いに盛り上がる。

環境の構成

- ・十分な量の「カプラ」と，広げたり積み上げたりできる場所を用意する。
- ・必要に応じて，テキストを用意する。



保育者の援助

- ・作りたいもののイメージがわからない子や，どう積んだらイメージに近い形になるか悩んでいる子には，テキストを見せたり，一緒に考えたりする。
- ・壊された等，トラブルになった際には状況を見て互いの話を聞く。

育っていること

- ・イメージした物を試行錯誤しながら形にしてい。
- ・自分自身のイメージを言葉で伝える。
- ・どうしたら壊れない組み方，積み上げ方ができるか考える。
- ・壊れてもあきらめずに，挑戦する。
- ・友達のイメージや意見を聞く。
- ・友達と一つのものを作りあげる喜びを味わう。
- ・互いのイメージや意見を取り入れながら協力して一つのものを作る。

小学生の姿

この活動から，生活科の「自分自身，身近な人々や社会の特徴やよさ，それらの関わり等に気付く」ことにつながる。また，これは，中学年以降の社会科，理科，総合的な学習の時間の探求につながる。思考力は，これらの活動や体験を通して，気付いたことをもとに，考え，試し，工夫していくことで育まれていく。

- 【国語】・相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考える。
- ・互いの話に関心を持ち，相手の発言を受けて話をつなぐ。
- 【算数】・具体物を用いて形を作ったり分解したりする。
- ・方向や位置についての言葉を用いて，ものの位置を表す。
 - ・具体的な操作を通して形の構成について考える。
- 【生活】・みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

- 【図工】・身近なものを使い，表し方などを工夫して創造的につくったり表したりする。
- 【道徳】・友達と仲良くし，助け合おうとする。
- 【体育】・友達と話し合っ作戦を考える。
- ・どうしたらうまくできるか試行錯誤する。
- （その他，情緒など）
- ・根気強く頑張る。
 - ・達成感を味わう。
 - ・生活の中で数や形に触れる（接する）。
 - ・人と関わることの楽しさを味わう。
 - ・失敗を繰り返しながらもあきらめずに取り組む。

項目名

自然との関わり・生命尊重

(思考力の芽生え, 言葉による伝え合い, 豊かな感性と表現, 協同性, 数量への関心・感覚)

【活動名】カイコっておもしろい

【時期】5歳児 5月～7月

【ねらい】①虫の成長を見て知る ②生き物の命の大切さを知る ③生き物に親しみをもち、触れる

5月から園でカイコを育てる。自分たちで育てていくことを話すと、意欲的に取り組もうとする。
毎日餌の桑の葉をあげることで、幼虫のカイコの大きさの変化や与える葉っぱの量の変化に気付く。自分たちで桑の葉を採りに行っていたことで自然と桑の木を覚え、遊びに行った公園などで見つけて知らせてくれるようになっていった。また、世話をしていく中で、カイコの体調にも気付くようになる。
「このカイコ、色が黒いけどなんで？」や「このカイコ、まだちっちゃいね。」とカイコの成長のズレに気付く。
それらのカイコが大きくなることが出来ず死んでしまった時、子どもたちから、以前も行った地面に埋めてあげてくれることを提案してくる。個々の感じ方はそれぞれではあるが、別れということを理解していた。
カイコが成長するにつれ様子が変わっていくこともとても楽しみにし、興味を持っていた。マユを作った時には驚き、興味津々で見たり触ったりし、中にさなぎがいることを何度も繰り返し保育者に聞きながら納得していく様子が見られる。また、さなぎがカイコガになった時にもチョウと同じ過程をたどることに気づき、驚く様子が見られた。

環境の構成

- ・全員が関わる事が出来るよう、当番をグループごとに回していく。
- ・子どもたちの目に止まる場所にカイコの箱を置く。
- ・保育者が率先して世話をする姿を見せるようにする。



保育者の援助

- ・カイコに触れるのが苦手な子には、無理に触らせることはせず、箱の掃除の手伝いなどをお願いし、カイコの世話に関われるようにする。
- ・カイコとどう接するのがカイコにとって良いかを問いかけ、気付かせていく。

育っていること

- ・カイコの成長を間近で見ることにより、虫の生態や成長の過程に感動し、好奇心や探究心を深めることができる。
- ・自分たちで育てることで生き物に愛着を感じ、積極的に世話をしようとする。
- ・カイコの死に直面することは、世話をすることの大切さや優しく触れることの大切さを知るきっかけとなる。

小学生の姿

この経験は、生活科の「自分自身、自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付く」ことにつながる。このことで、自分の思いを生かし、主体的に活動したり、活動の楽しさや満足感を実感できるようになったりすると考える。さらに、中学年以降の理科の「自然を愛する心情を養う」ことや「観察などを行い、問題解決の力を養う」ことの基礎となると考える。

【国語】・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。

- ・図鑑や本などを読んで感じたことや分かったことを共有する。

【生活】・動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

【理科】・昆虫の育ち方や体のつくりについて知る。(3年「こん虫の育ち方」)

- ・動物の発生や成長について理解を図り、生命を尊重する態度を育てる。(4年「季節と生物」)

(5年「植物の発芽と成長」、「植物の実や種子のでき方」、「メダカのたんじょう」、「人のたんじょう」)

(6年「植物の体のつくりとはたらき①日光との関わり」、「植物の体のつくりとはたらき②水との関わり」、「生物と地球環境」)

【道徳】・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

項目名

豊かな感性と表現（言葉による伝え合い、協同性）

【活動名】お楽しみ会への取り組み

【時期】5歳児 10月～12月

【ねらい】イメージを共有し、表現したり、友達とのやりとりを楽しんだりしながら達成感を味わう。

お楽しみ会に向け、劇と合奏の練習を始めた。劇の配役決めは、希望通りに全員がなることができた。各自で台詞を覚えてきているが、出番待ちの時に友達とのふざけっこが楽しくなり、自分の出番に気付かず、途切れ途切れの練習になってしまっていた。

場面ごとに出番のある子どもだけを呼んで練習をし、短時間で集中してできるようにした。その場面ではスムーズにできるようになったが、通し練習になると毎回、保育者に「次は〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん出るよ。」と呼ばれないと出てこられなかった。そこで、保育者は呼ぶことをやめた。すると、自分たち一人ひとりが出番を意識して劇を見ていなくてはならないことが分かり、呼ばれなくても出てこられるようになった。意識して待てるようになったことで出番が分かり、待ち方も変わり、自分たちで劇がつながるようになっていった。

劇の練習を進める中で、子どもたちの台詞のやり取りが会話のようにスムーズになってきた。繰り返す中で、台本にない台詞を自発的に自由な発想で表現するようになったり、踊りの振りがまとまらず「どうしたら踊りやすい？」との問いに、「こうは？」と子ども同士で振り付けを考えたりする姿が見られた。

環境の構成

- 子どもたちの自由な発想を取り入れられるよう、振り返って考えたり、相談したりする時間を設ける。



保育者の援助

- 一人ひとりの発想を認める。
- 子どもたちで意見を出し合い、工夫できるように話を聞く。考えを取り入れられるように調整をする。

育っていること

- イメージを共有し、自由に表現することの楽しさを知る。
- 思いや考えを友達に伝えたり、協力して一つのものを作り上げたりしていくことの難しさや楽しさを味わう。
- 表現の方法を自分たちで考えたり工夫したりする。

小学生の姿

友達と劇遊びをつくり、友達とできたという経験は、生活科の「身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う」ことに通じる。また、特別活動の「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する」ことにつながっていく。

【国語】・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音に注意して話す。

- 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ。

【音楽】・互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏をする。

【体育】・各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える。

【道徳】・友達と仲よくし、助け合う。

【特別活動】・平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりする。

（その他、情緒など）

- 歌やダンス等で自分を表現する楽しさを知る。
- 色々な楽器に触れ、演奏する楽しさを知る。
- 集団で作りあげる楽しさを知る。